

## 第66回

# 日本輸血・細胞治療学会中国四国支部例会

プログラムおよび講演抄録集

会 期	令和3年9月11日(土)
会 場	広仁会館 webinar (ハイブリッド形式)
例会長	藤井 輝久(広島大学病院 輸血部長)

## 開会のご挨拶

第66回日本輸血・細胞治療学会中国四国支部例会長  
藤井輝久(広島大学病院 輸血部長)

この度、第66回日本輸血・細胞治療学会中国四国支部例会を、令和3年9月11日(土)に、開催させていただくことになりました広島大学病院輸血部の藤井です。私がこの例会に参加するようになりましてから、3回目の広島開催となります。それぞれ、前々回は高田昇先生、前回は沖田肇先生が例会長をお努めいただきました。私も偉大な広島の先輩方に負けずに盛会となるよう努力して参る所存です。

しかしながら、昨年からの新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、今年も現地参集のみでの例会は困難と判断し、現地参集及びWEBのハイブリッド形式で開催させていただくことになりました。会員全員のみなさまと広島の地で、face-to-faceでの親睦を図ることができないことを非常に残念に思いますが、一方でご参集いただける方には、これを機会にコロナ自粛疲れを広島の地でいやしていただければ、と存じます。

また昨年中止となりましたI&A視察員養成講座ですが、今年も中止とさせていただきます。学会本部のI&A委員会におきましても、WEBによる視察が試験的に始まったばかりであります。中四国支部は、特に技師の視察員が不足していますので、視察員養成は喫緊の課題ではありますが、視察員養成のためのWEB講座開設は、現時点では無理と考えます。何卒ご容赦いただければ幸いです。

この度は、初めての試みとして「共催セミナー(ランチオンセミナー)」を計画しました。このような共催セミナーは他支部では行っており、中四国支部にも取り入れたいと以前から考えておりました。この度「アルブミン製剤の適正使用」について、愛媛大学医学部附属病院 消化器内科教授の日浅陽一先生にご講演賜ることができ、誠にうれしい限りです。

今回の特別講演は、広島大学名誉教授で、現在日本赤十字社中四国ブロックセンター長の小林正夫先生にお願い致しました。先生が広島大学在籍中には、小児血液腫瘍・免疫疾患の診療・研究をご専門とされ、その領域では日本のトップリーダーの一人であることはご存知の方も多いのではないのでしょうか。この度小林先生には、在籍中に我々輸血部と共同で研究をさせていただいた「好中球抗原」についてご講演いただきます。

最後になりましたが、この度の支部例会開催に際して、ご協力いただきました支部会会長の川崎医科大学 和田秀穂教授並びにスタッフの方々、関連企業の皆様方、診療・業務との掛け持ちの中、開催を実現していただいた事務局のスタッフに厚く御礼を申し上げます。

## ご案内

### 1. 参加者の方へ

- オンライン決済で参加費1,000円を入金された方に、Zoom Webinarへの招待メールを送信しましたので、事前にソフトのダウンロード等、導通確認を行ってください。
- 参加者(非会員を含む)には「プログラムおよび講演抄録集」を送付致します。
- 9月11日当日のZoom Webinarには11時30分より入室可能です。例会の開始は12時からですので、早めに入室をお願いします。
- 当日、ご来場の方は、現地にて参加費を現金にてお支払いください。参加証及び領収書は現地でお受け取り下さい。現地参加以外の方には、参加証及び領収書は後日お送りします。

### 2. 代議員の先生方へ

- 代議員会は、現地会場(広仁会館)及びZoomにて10時40分より11時30分に実施します。

### 3. 演者・座長の先生方へ

#### 1) 口演発表の先生方へ

本例会では、現地での口演または、事前に発表用スライド(音声入りデータ)を提出いただいたの発表になります。オンライン参加の発表者の方は、発表用スライドを事前に事務局まで送付願います。スライド作成の際には、著作権や個人情報のご配慮をお願いします。

#### (1)発表時間

一般演題の発表時間は各 10 分(発表 8 分・質疑応答 2 分)を予定しております。演題名及び発表者名のスライドの次のスライドは、ご自身の COI 開示のスライド(形式自由、内容は、日本輸血・細胞治療学会の利益相反(COI)に関する指針[[http://yuketsujstmct.or.jp/summary/summary\\_coi/](http://yuketsujstmct.or.jp/summary/summary_coi/)])に沿って下さい)を提示していただくようお願い致します。

スライド枚数は、10 枚以内(演題名及び発表者名と COI 開示スライドを除く)を目安とさせていただきます。

## <現地でご発表の場合>

### (2)当日のお願い

発表当日、セッション開始 30 分前までに、現地で発表データの受付、試写(動作確認)を行ってください。発表用のデータは、PC 受付にてコピーをお預かりし、メディアはその場でお返しいたします。また、発表終了後、データは主催者側で責任を持って消去いたします。

PC 受付時間: 9月11日(土)10:30~15:30

※バックアップデータを持参されることをお勧めいたします。

※発表時のスライドの操作は演台上的マウス・キーボードをご利用ください。

(3)発表形式

PowerPoint による PC プレゼンテーションのみといたします。  
PC プロジェクターは 1 台、正面投影のみとなります。

(4)PC の仕様

会場に用意する PC の OS は Windows10 となります。MAC をご使用の方は、PC 及び接続ケーブルコネクタをご持参いただき、自身の PC でご発表をお願いします。

(5)発表データの仕様

発表データは、PowerPoint2007～2019 のバージョンで作成してください。スライドに動画が含まれる場合、埋め込み方式で保存してください。リンク先の動画使用の場合、必ず動画本体データもご持参ください。

(6)当日の発表形式

通常の学会発表のスタイルです。ご自身で会場マイクを通しての口頭発表、並びにスライド操作をお願いします。

**<音声入りデータでのご発表の場合>**

(7) 事前の準備のお願い

PC や発表データの仕様とは、前述のものと同じです。PowerPoint で音声入りデータを作成いただき（作成方法は別紙記載）、9月5日（日）迄にフリーソフトデータ便(<https://www.datadeliver.net>)を使用して、[join.jstmct.chushi.meeting66@gmail.com](mailto:join.jstmct.chushi.meeting66@gmail.com) へ送付して下さい。またファイルにはパスワードロックは掛けないようにお願い致します。

なお、フォントは文字化け、レイアウト崩れを防ぐため下記のフォントに限定させていただきます。

MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝、

Arial、Century、Century Gothic、Times New Roman

ご発表データは学会終了後、事務局で責任を持って消去いたします。

(8)当日の発表形式

当日は事前にお預かりしたご発表データを運営事務局にて配信し、その後、Zoom にて質疑応答にご参加いただきます。ご自身のご発表セッション開始 30 分前には、あらかじめご案内する Zoom にご入室ください。簡単な動作確認等させていただきます。その後、ご自身の順番までお待ちください。

発表時間になりましたら、オペレーター操作で会場とオンラインに発表動画が流れます。質疑応答になりましたら、ご自身の操作でカメラ、マイク ON にして頂き質問への答えをお願いします。

## 2) 座長の先生方へ

発表者に対する質問は、現地参加者は会場マイクを通し、オンライン参加者は Zoom のチャットを通して行います。

### (1) 現地でご登壇の場合

ご担当セッション開始 10 分前までに、各会場前方右側の次座長席までお越しください。Zoom のチャットに届いた質問は、座長席設置のモニターに表示されます。

### (2) WEB でご登壇の場合

11:40 に ZOOM へアクセスして頂き、動作確認並びに簡易打合せを行います。ご担当セッション開始 20 分前までに、あらかじめご案内する Zoom にご入室いただき、お時間までお待ちください。「それでは始めます。〇〇先生お願いします～」のアナウンス後に、ご自身の操作でカメラ、マイク ON にして頂き始めて下さい。会場とオンラインに発表動画が流れます。

Zoom のチャットに届いた質問は、モニター画面の下のアイコンに表示されますので、それを開いて、ご覧いただき発表者への質問を読み上げて下さい。会場からの質問の場合は、スタッフ・マイク係からお声掛け致します。



第66回日本輸血・細胞治療学会中国四国支部例会事務局

広島大学病院輸血部

〒734-8551 広島県広島市南区霞1-2-3

TEL:082-257-5581 FAX:082-257-5581

E-mail: yuketsu@hiroshima-u.ac.jp

## 会場案内



出発地点	タクシー	公共交通機関
広島駅南口から	10分	バスで約20分
広島バスセンターから	15分	バスで約20分
宇品港から	15分	市内電車で約20分、バスに乗り換えて約5分
広島空港から	60分	バスで約70分

広島大学病院Webサイト(交通アクセス <https://www.hiroshima-u.ac.jp/hosp/access>)をご覧ください、路線バスの時刻表が入手できます。

お車でお越しの方に駐車補助券を交付致します(自己負担金 400円)。

## 第66回日本輸血・細胞治療学会中国四国支部例会プログラム

会 期 令和3年9月11日(土)  
会 場 広仁会館及びZoom webinar (ハイブリッド形式)  
例会長 藤井 輝久(広島大学病院 輸血部長)

### 会長挨拶および総会 12:00-12:15

例会長 藤井 輝久(広島大学病院 輸血部長)  
支部長 和田 秀穂(川崎医科大学附属病院 血液内科)

### 共催セミナー 12:25-13:15

座長:藤井 輝久 (広島大学病院 輸血部)  
アルブミン適正使用と肝硬変診療ガイドライン2020について  
愛媛大学大学院 消化器・内分泌・代謝内科学 教授  
日浅 陽一 先生

### 一般演題

#### I.輸血業務・検査 13:30-14:10

座長:藤井 明美 (県立広島病院 検査部)

- COVID-19流行が当院の輸血部門に与えた影響  
愛媛大学医学部附属病院輸血・細胞治療部<sup>1)</sup>、愛媛大学医学部附属病院検査部<sup>2)</sup>、  
愛媛大学医学部附属病院中央診療施設造血細胞移植センター<sup>3)</sup>  
秋田誠<sup>1)</sup>、土居靖和<sup>1)</sup>、岡本康二<sup>1)</sup>、重松恵嘉<sup>1)</sup>、高須賀康宣<sup>2)</sup>、谷口裕美<sup>2)</sup>、谷本一史<sup>3)</sup>、  
山之内純<sup>1)</sup>
- 本院における輸血管理システム更新に伴う輸血業務の改善点  
広島大学病院診療支援部臨床検査部門<sup>1)</sup>、広島大学病院輸血部<sup>2)</sup>  
小川茂樹<sup>1)2)</sup>、野間慎尋<sup>1)2)</sup>、栗田絵美<sup>1)2)</sup>、山岡愛子<sup>1)2)</sup>、矢内綾佳<sup>1)2)</sup>、小松真由美<sup>1)2)</sup>、  
柏原真由<sup>1)2)</sup>、齊郷莉奈<sup>1)2)</sup>、北川裕華<sup>1)2)</sup>、井上暢子<sup>2)</sup>、石田誠子<sup>2)</sup>、山崎尚也<sup>2)</sup>、藤井輝久<sup>2)</sup>

3. 当院における継続的な日当直トレーニングの取り組み  
 山口県立総合医療センター中央検査部<sup>1)</sup>、山口県立総合医療センター血液内科<sup>2)</sup>  
 中村友里<sup>1)</sup>、佐伯奈々<sup>1)</sup>、西岡桂子<sup>1)</sup>、高橋徹<sup>1)</sup>
4. PEG試薬ロット変更時の精度管理で認められた凝集減弱についての検討  
 広島大学病院診療支援部臨床検査部門<sup>1)</sup>、広島大学病院輸血部<sup>2)</sup>  
 齊郷莉奈<sup>1)2)</sup>、野間慎尋<sup>1)2)</sup>、栗田絵美<sup>1)2)</sup>、山岡愛子<sup>1)2)</sup>、矢内綾佳<sup>1)2)</sup>、小松真由美<sup>1)2)</sup>、  
 柏原真由<sup>1)2)</sup>、小川茂樹<sup>1)2)</sup>、北川裕華<sup>1)2)</sup>、井上暢子<sup>2)</sup>、石田誠子<sup>2)</sup>、山崎尚也<sup>2)</sup>、  
 藤井輝久<sup>2)</sup>

## II.症例・副作用

14:10-14:50

座長:山崎 尚也 (広島大学病院輸血部)

5. 臍帯血移植後の早期再発に対して免疫抑制薬の中止が有効であった悪性リンパ腫の一例  
 国立病院機構米子医療センター血液腫瘍内科<sup>1)</sup>、国立病院機構米子医療センター検査部<sup>2)</sup>、  
 鳥取大学医学部附属病院血液内科<sup>3)</sup>、駿甲会甲賀病院血液内科<sup>4)</sup>  
 但馬史人<sup>1)</sup>、前垣雅哉<sup>1)</sup>、足立康二<sup>1)</sup>、田澤千明<sup>2)</sup>、西尾崇矢<sup>2)</sup>、細田譲<sup>3)</sup>、河村浩二<sup>3)</sup>、  
 鈴宮淳司<sup>4)</sup>
6. 宗教的輸血拒否のある両親に対して児童相談所の介入によって児へ輸血を行った1例  
 独立行政法人国立病院機構福山医療センター 消化器内科病棟臨床輸血看護師  
 植村高行
7. 当院における照射洗浄血小板LR輸血による副作用減少についての検討  
 国立病院機構米子医療センター検査部<sup>1)</sup>、国立病院機構米子医療センター血液腫瘍内科<sup>2)</sup>  
 田澤千明<sup>1)</sup>、西尾崇矢<sup>1)</sup>、錦織千穂<sup>2)</sup>、藤井尚子<sup>2)</sup>、橋本ひろみ<sup>2)</sup>、景山智代<sup>2)</sup>、野口綾<sup>2)</sup>、  
 西山夏希<sup>2)</sup>、伴藤加名<sup>2)</sup>、新田ひとみ<sup>2)</sup>、濱田のぞみ<sup>2)</sup>、但馬史人<sup>2)</sup>
8. 本院における輸血関連アレルギー性副反応の解析  
 広島大学病院診療支援部臨床検査部門<sup>1)</sup>、広島大学病院輸血部<sup>2)</sup>  
 小松真由美<sup>1)2)</sup>、野間慎尋<sup>1)2)</sup>、栗田絵美<sup>1)2)</sup>、山岡愛子<sup>1)2)</sup>、矢内綾佳<sup>1)2)</sup>、柏原真由<sup>1)2)</sup>、  
 小川茂樹<sup>1)2)</sup>、齊郷莉奈<sup>1)2)</sup>、北川裕華<sup>1)2)</sup>、井上暢子<sup>2)</sup>、石田誠子<sup>2)</sup>、山崎尚也<sup>2)</sup>、  
 藤井輝久<sup>2)</sup>

(休憩 10分)



### Ⅲ.輸血用製剤

15:00-15:30

座長:野間 慎尋 (広島大学病院診療支援部・輸血部)

#### 9. 当院におけるクリオプレシテート使用の現状報告

愛媛県立中央病院検査部<sup>1)</sup>、同 心臓血管外科<sup>2)</sup>、同 血液内科<sup>3)</sup>

伊賀千環<sup>1)</sup>、石田由香<sup>1)</sup>、亀岡千映子<sup>1)</sup>、川本光江<sup>1)</sup>、石戸谷浩<sup>2)</sup>、名和由一郎<sup>3)</sup>

#### 10. クリオプレシテートの運用開始と今後の課題

岡山大学病院輸血部

池田亮、小郷博昭、浅野尚美、間結稀、高木尚江、松田真幸、近藤匠、木村真衣子、  
浦田知宏、藤井敬子、藤井伸治

#### 11. 融解後保存期限延長に伴う当院でのFFP使用状況調査

川崎医科大学附属病院輸血部<sup>1)</sup>、中央検査部<sup>2)</sup>、血液内科<sup>3)</sup>、

川崎医療福祉大学 臨床検査学科<sup>4)</sup>

吉田智子<sup>1)</sup>、岡井美樹<sup>1)</sup>、仲井富久江<sup>1)</sup>、文屋涼子<sup>1)</sup>、永井智美<sup>1)</sup>、中桐逸博<sup>4)</sup>、村上美香<sup>3)</sup>、

宗川裕子<sup>3)</sup>、小松はるよ<sup>3)</sup>、辻岡貴之<sup>2)</sup>、北中明<sup>2)</sup>、通山薫<sup>2)</sup>、近藤英生<sup>1)3)</sup>、和田秀穂<sup>3)</sup>

### Ⅳ.MTP・アンケート調査

15:30-16:10

座長:井上 政弥 (島根大学医学部附属病院 輸血部)

#### 12. 島根県における外来輸血について ~2019年度のアンケート調査より~

島根県合同輸血療法委員会<sup>1)</sup>、島根大学医学部附属病院輸血部<sup>2)</sup>、島根大学医学部附属  
病院検査部<sup>3)</sup>

井上政弥<sup>1)2)</sup>、兒玉るみ<sup>1)2)</sup>、藤原宇志<sup>3)</sup>、足立絵里加<sup>3)</sup>、石原智子<sup>3)</sup>、定方智美<sup>3)</sup>、竹谷健<sup>1)2)</sup>

#### 13. アクションカードを用いた大量輸血プロトコール(MTP)の運用

島根大学医学部附属病院検査部<sup>1)</sup>、島根大学医学部附属病院輸血部<sup>2)</sup>

藤原宇志<sup>1)</sup>、兒玉るみ<sup>1)</sup>、足立絵里加<sup>1)</sup>、石原智子<sup>1)</sup>、定方智美<sup>1)</sup>、荒木剛<sup>1)</sup>、矢野彰三<sup>1)</sup>、  
井上政弥<sup>2)</sup>、竹谷健<sup>2)</sup>

#### 14. 本院における外傷に対する大量輸血プロトコールの状況

広島大学病院診療支援部臨床検査部門<sup>1)</sup>、広島大学病院輸血部<sup>2)</sup>

北川裕華<sup>1)2)</sup>、野間慎尋<sup>1)2)</sup>、栗田絵美<sup>1)2)</sup>、山岡愛子<sup>1)2)</sup>、矢内綾佳<sup>1)2)</sup>、柏原真由<sup>1)2)</sup>、

小松真由美<sup>1)2)</sup>、小川茂樹<sup>1)2)</sup>、齊郷莉奈<sup>1)2)</sup>、井上暢子<sup>2)</sup>、石田誠子<sup>2)</sup>、山崎尚也<sup>2)</sup>、

藤井輝久<sup>2)</sup>

15. 「災害時等における医療機関間の輸血用血液製剤の譲受・譲渡(融通)指針」作成に向けたアンケート調査

広島県健康福祉局薬務課<sup>1)</sup>、広島県赤十字血液センター事業推進部学術情報・供給課<sup>2)</sup>、

広島大学病院輸血部<sup>3)</sup>、広島県合同輸血療法委員会<sup>4)</sup>

深本絢子<sup>1)4)</sup>、山口まみ<sup>1)4)</sup>、徳永克志<sup>1)4)</sup>、小田佐知子<sup>1)4)</sup>、源内智子<sup>1)4)</sup>、白石有希恵<sup>1)4)</sup>、

山口和美<sup>2)4)</sup>、藤井輝久<sup>3)4)</sup>

(休憩 10分)

**特別講演**

16:20-17:10

座長:藤井 輝久(広島大学病院 輸血部長)

好中球特異抗原の基礎と臨床

日本赤十字社 中四国ブロック血液センター所長

広島大学名誉教授

小林 正夫 先生

**閉会挨拶**

17:10-17:20

例会長 藤井 輝久(広島大学病院 輸血部長)

次年度例会長

## 特別講演抄録

## 好中球特異抗原の基礎と臨床

日本赤十字社 中四国ブロック血液センター所長  
広島大学名誉教授

小林 正夫 先生

ヒト好中球特異抗原 (Human neutrophil antigen, HNA) はHNA-1～HNA-5まで、nullを含め15型が分類されている。HNAに対する抗体は、免疫性好中球減少症、新生児同種免疫性好中球減少症、輸血分野では輸血関連急性肺障害 (TRALI) への関与が知られている。抗好中球抗体の同定には種々の方法が開発、応用されているが、いずれも感度、特異性ともに問題がある。近年はFlow cytometryによる免疫蛍光法が簡便であることから汎用されているが、HNA-1がFcγRIIIb上に存在することから、血清を用いた測定では、偽陽性が生じやすい。広島大学病院輸血部、小児科では1980年代から、HNAとHNA抗体に関する検討を開始し、HNA抗体測定は全国から依頼を受けている。また、HNA-1、HNA-2に関しては、モノクローナル抗体を独自に作製し、測定に利用している。

小児自己免疫性好中球減少症は乳児から幼児期に好発し、HNA-1a、1bに対する自己抗体により好中球減少がみられ、感染症の頻発、時に重症感染症を経て、抗体の自然消失から好中球減少の治癒が数年以内に認められる。新生児同種免疫性好中球減少症は母児間の抗原不適合で、赤血球系、血小板系と同様に一過性の好中球減少がみられるが、臨床的に症状が軽微か明らかでないことから、症例の集積は不十分である。確率上は5～6,000分娩に1例の頻度と推測されている。

TRALIは重篤な輸血合併症として2004年に診断基準が定められ、2019年に再定義と新診断基準が公表されている。抗白血球抗体の存在はTRALI発症のsecond hitであり、製剤側要因としてのHNA抗体の同定は重要な病因の一つとして考えられている。近年のTRALI発症は抗白血球抗体陽性を考慮した血漿製剤の除外から、著明に減少しており、病態解明が予防策として効果を発揮している。

以上、これまでの広島大学病院でのHNA抗体測定について、臨床的側面を含めた結果について、まとめて報告する。

## ご略歴

1978年 広島大学医学部医学科卒業 同小児科入局  
1979-1983年 広島大学大学院医学系研究科  
1983年 広島大学医学部小児科学 助手  
1994-1996年 米国サウスカロライナ医科大学小児病院リサーチフェロー  
1996年 広島大学病院小児科 講師  
1998年 広島大学教育学部幼児保健学 教授  
2003年 広島大学大学院医歯薬学総合研究科(小児科学) 教授  
2009年-2012年 広島大学大学院医歯薬学総合研究科長  
2012-2014年 広島大学大学院医歯薬保健学研究院長・研究科長  
2019年 広島大学 定年退職  
2020年 日本赤十字社中四国ブロック血液センター 所長

## 所属学会

日本小児科学会  
日本血液学会  
日本小児血液・がん学会  
日本輸血・細胞治療学会  
日本造血・免疫細胞療法学会  
日本免疫学会  
日本免疫不全・自己炎症学会  
日本血液事業学会  
日本小児保健協会  
米国血液学会

## 専門医・指導医

日本小児科学会専門医  
日本血液学会認定血液専門医・指導医  
日本小児血液・がん学会暫定指導医  
日本造血・免疫細胞療法学会 認定医

## 主な研究分野

小児科学、血液腫瘍学、免疫学、輸血学